

未来へ繋げる まちづくりの8つの柱

橋本市長の平木哲朗でございます。私は、これまで、財政の健全化に努めながら、子育て支援や教育・福祉の充実、地域経済の活性化、そして防災対策の強化など市政を推進してまいりました。その結果、比較的若い世代の転入が増加するなど、少しずつ形として表れ始めています。

この4年間では、これまでの政策を継続しつつ、より進化させるとともに持続可能なまちづくりを実現するための新たな施策にも積極的に挑戦してまいります。

人口減少が進む中でも、今を生きる世代はもちろん、未来を担う子どもたちが「このまちに住んでよかった」と誇れるよう、市民の皆さまとともにまちの発展を目指して全力で取り組んでまいります。その実現のため、次の8つの取り組みを柱として進めます。



今月のかけ橋

女性に寄り添う かける 橋本人



誰もが自分らしく生きることができる社会をめざし、市内を中心に女性支援などの活動を展開

GEはしもとサピユイエの皆さん

私たちはジェンダー平等の理念を大切にし、啓発や相談事業を行なっています。同じ志をもった皆で活動することで、メンバーから学ぶことも多く、やりがいを感じています。

世の中には、女性にとって不利になり得る社会構造がまだまだ残っていると感じさせられます。私たちの活動を通じて、そんな社会を少しでも前へ進めていきたいと思えます。

6月からは新たに女性相談支援窓口がスタートします。「夫との関係で悩んでいる」「これって性被害では？」など、少しでも悩みを持っている人は、「こんなこと相談しても…」と思わず、些細なことでもぜひご相談ください。

1

地域に寄り添った持続可能なまちづくりを推進します

地域の担い手不足や自治会活動の維持などの課題に対応するため、地域運営組織や第2層協議体を通じた「助け合い、支え合い」の仕組みを構築し、市民の皆さんがまちづくりに参画できる持続可能な地域社会の実現に取り組めます。

そのため、持続可能な地域コミュニティ発展交付金(SDGs交付金)や地域づくり活動交付金により、地域主体の取り組みを支援します。

2

生産者を支援し、産業振興と地域経済の活性化に取り組めます

稼ぐ力を高めるため、農業や商工業の生産者支援を強化します。農業では、本市の主要農産物のブランド化を進めることで、農業者の所得向上を目指します。商工業では、高野口パイルのブランディングや紀州へら竿の新たな取り組みへの支援に加え、地元産業を積極的に支援します。さらに、本市独自の地域経済の好循環を創り出すため、デジタル地域通貨「HashiMo(ハシモ)」の活用をさらに推進します。

また、本市の魅力を全国に発信し、ふるさと納税の拡充にも努めます。このふるさと納税を入り口として、本市の豊かな食や自然、歴史に触れていただくことで、寄附金の確保にとどまらず、将来的な関係人口の創出や観光振興へつなげることを目指します。



目次

- 3 特集 未来へ繋げるまちづくりの8つの柱
- 6 特集 新庁舎整備基本構想を策定しました
- 8 情報ワイド
 - ▶ 紀の川橋本SUMMERBALL2026 有料観覧席を販売します
 - ▶ 避難行動要支援者登録制度
 - ▶ 人権啓発推進委員会
 - ▶ スマートフォン教室 など
- 12 情報ひろば
- 20 タウン情報
- 21 子育てぱーく
- 22 本のひろば
- 23 健康カレンダー
- 24 はしもと 散歩

今月の表紙



5月上旬、市内で行われた田植えの様子。